2016 年夏
福島を感じて考えるスタディツアー
「スタ☆ふく」水産漁業ツアー2016
～来て見て体験 いわきで味わう 海の幸 人の幸～

活動報告書

2016 年 10 月

企画:スタ☆ふくプロジェクト

助成:住友商事 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム―活動・研究助成―2016 年度
第4回 公益財団 公益法人協会「東日本大震災 草の根支援組織応援基金」

目次

1. はじめに----------2

2. 企画背景----------3

3. 企画趣旨----------4

4. 団体概要----------5

5. ツアー詳細----------8

① 概要----------8

② ツアー行程----------9

③ アンケート結果----------12

④ 参加者の声----------14

⑤ 企画担当者の声----------15

6. 広報・メディア掲載について----------17

7. ご協力いただいた方々----------20

8. 総括----------21

9. お問い合わせ先----------23

1. はじめに

2012 年 4 月から始まった弊団体の活動も 5 年目に突入し、『スタ☆ふく』のツアー企画も今回で 16 回目になりました。本ツアー「スタ☆ふくいわき水産漁業ツアー2016 来て見て体験 いわきで味わう 海の幸人の幸」は 2012 年からいわき市の水産漁業の現状を追うツアーとして毎年開催を続け、今年も無事開催することができました。ツアー実施にあたってご協力いただいた皆様への感謝の意も込め、そしてより多くの方々に私たちの活動および今の福島の現状を知っていただくべく、報告書を作成致しました。

この報告書を通して、少しでも私たちの活動内容、福島の漁業の現状への理解を深めていただけたら幸いです。

―1 日目、漁師との交流プログラムでの集合写真　道の駅よつくら港にて―

2. 企画背景

「東日本大大震災後の福島の現状を見て体験することで、福島への関心を深めてほしい。」この想いを胸に、2012 年 4 月、福島大学の学生によって発足し、企画されたのが“福島を感じて考えるスタディツアー「スタ☆ふく」”でした。

これまで県内 7 か所で計 15回、福島県内外から367名を動員するスタディツアーを企画してきました。地域の人との交流に重点を置いたプログラムを通して、福島のありのままの現状を伝えることや、その地特有の課題に向き合う人々の「生の声」を発信していくことで、風評被害の払拭や福島への関心の高度化などをはかり、震災からの復興や地域活性化の一助となるようなツアーの企画にあたっております。参加者ならびに地域関係者からは，「今後とも継続的にツアーを実施してほしい」という声を多くいただきます。

企画者自身の私たちが、一番に「福島」から学ぶこと、そして福島の「リアル」を発信し、ツアー参加者や地域の方々と共に「復興とは」ということや、福島や各地域の「未来」について今後も考え続け、地域と参加者をつなぐ架け橋となれるよう、今後も継続的に活動をしていきます。

今回で5回目のいわき水産漁業ツアー開催となります。震災から5年が経過した今も風評被害が続いております。それはいわきについての情報が県外、さらには県内でさえも十分に知れ渡ってないという理由があります。そこで実際にいわきに来て、見て、聞いて、体験することでいわき漁業について学ぶきっかけを創出したいと考え、今回の企画に至った背景となります。

3. 企画趣旨

いわき市は福島県浜通り南部に位置し、昔から水産漁業が盛んな地域です。震災以前は『常磐もの』というブランドで地元だけでなく首都圏でも高く評価されていました。しかし、福島第一原子力発電所の事故により、震災後 3 年にわたって沿岸での漁が自粛されました。その間に漁師は週 1 度のモニタリング漁を欠かさず行い、漁の再開に向けて話し合いを重ねてきました。そして 2013 年 10 月から試験操業という形で、小規模ながら消費者向けの漁が再開されています。

福島県では獲れた魚を検査し、安全と判断されたものが市場に出回っています。平成 27 年 4 月以降国の基準値超えはゼロであり、同年 7 月以降は 90%以上の魚介類が不検出で推移しています。しかし、このような取り組み自体広く知られていないという現状があります。

本ツアーでは上記検査体制の見学なども含め、漁師や加工販売者などとの交流を通して地域の方の想いに触れるとともに、参加者の方自身で様々な体験をすることによっていわきの漁業の現状を五感で感じ、知ってほしいという思いから今回の企画にあたりました。

―いわき水産漁業ツアー2016　企画メンバー―

4. 団体概要

『スタ☆ふくプロジェクト』は 2013 年 4 月に母体団体であった『全国学生プロジェクト（JASP）』から分離独立しました。JASP は東日本大震災をきっかけに福島大学の学生有志を発起人として全国の学生がつながり、日本の復興への若者の無限の可能性を発信することを目的に 2011 年 10 月に設立されました。2012 年 3 月にのべ 1000 人が参加したタスキリレーや、福島市内で行われた鎮魂イベント「JASP in FUKUSHIMA」などで成功をおさめました。これらのイベント後、自身が被災地に出向きリアルな福島を五感で感じること、震災に対する自分の立場や考え方を明確化することを目的に 2012 年夏季（8 月～9 月）福島を五感で感じる旅行「福島スタディツアー」企画を提案・実施しました。

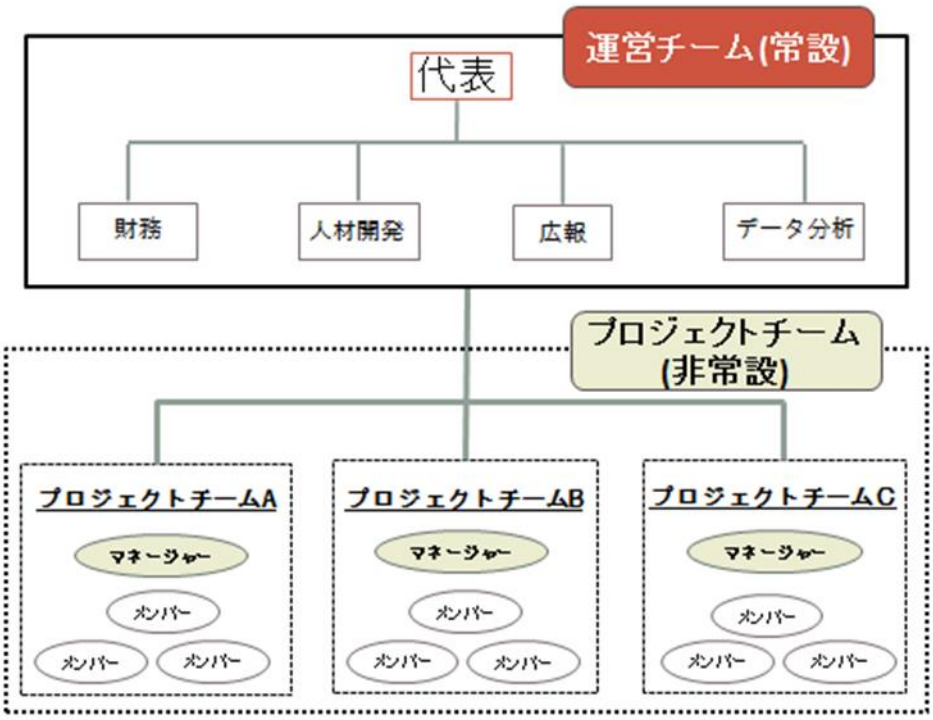
その後、『スタ☆ふくプロジェクト』は 2013 年 4 月に「福島を五感で感じて考えるスタディツアー」を主な事業とする団体として JASP から独立しました。それ以来、被災後の福島のイメージの改善や福島に住む人々の主体性の喚起を目的に、まちづくり・地域おこし、その土地の産業などに焦点を当て、福島県会津若松市やいわき市、二本松市などで体験型のツアーを計 16 回企画・実施してきました。現在、福島大学の学生によって組織され、2016 年 9 月 31 日現在 18 名で活動しています。

【団体ビジョン】
「先進的な地域活性化モデルとしての福島」の実現

【受賞歴】
2013 年 6 月　観光庁主催『若者旅行を応援する観光庁官賞「東北ブロック賞」』受賞

今しかできない旅がある
若旅

【組織図】



【構成メンバー(2016 年 9 月 31 日現在)】

～運営チーム～

代表	菊地実咲	人間発達文化学類	2 年
人材開発	伊藤如晏	経済経営学類	2 年
広報	菅野ゆう	行政政策学類	2 年
データ分析	黒澤和也	経済経営学類	4 年
財務	牧内美樹	経済経営学類	2 年

～活動メンバー～

阿部晴佳	行政政策学類 4 年	遠藤圭一郎	経済経営学類 2 年
田辺将大	共生システム理工学類 4 年	佐藤美紗	人間発達文化学類 2 年
羽賀さやか	行政政策学類 4 年	戸田龍佑	経済経営学類 2 年
三浦菜生	行政政策学類 4 年	長沢梓	経済経営学類 2 年
渡辺直子	人間発達文化学類 4 年	宝槻亮汰	行政政策学類 2 年
平澤和弥	経済経営学類 3 年	小室芽美	経済経営学類 1 年
安齋瑞希	人間発達文化学類 2 年		

プロジェクト開始:2012 年 4 月

団体発足:2013 年 4 月

【過去のスタディツアー】

2012 年 8 月「スタ☆ふく 水産・漁業ツアー」 いわき市（32 名動員）

2012 年 9 月「スタ☆ふく 観光業ツアー」 喜多方市（27 名動員）

2012 年 9 月「スタ☆ふく 農業ツアー」 二本松市（25 名動員）

2012 年12月「スタ☆ふく 冬の二本松ツアー」 二本松市（18 名動員）

2013 年 8 月「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」 いわき市（37 名動員）

2013 年 9 月「スタ☆ふく まちづくりツアー」 二本松市 （33 名動員）

2013 年11月「スタ☆ふく ふくしま若者ツアー（子ども）」 郡山市 （15 名動員）

2013 年11月「スタ☆ふく ふくしま若者ツアー（食）」 福島市 （12 名動員）

2014 年 8 月「スタ☆ふく 霊山町子どもツアー 」 伊達市 （20 名動員）

2014 年 8 月「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」 いわき市（32 名動員）

2015 年 2 月「スタ☆ふく 会津日本酒ツアー」 会津若松市・会津坂下町（19 名動員）

2015 年 2 月「スタ☆ふく 東和田舎暮らしツアー」 二本松市（13 名動員）

2015 年 8 月「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」 いわき市（40 名動員）

2015 年 9 月「スタ☆ふく 東和農業ツアー」 二本松市（15 名動員）

2016 年 2 月「スタ☆ふく 会津日本酒ツアー」会津若松市・会津坂下町・喜多方市（20 名動員）

2016 年 8 月「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」 いわき市（29 名動員）

【団体連絡先】

〒960-1296 福島県福島市金谷川1 福島大学学生課 「スタ☆ふくプロジェクト」

Mail：suta.fuku@gmail.com

5. ツアー詳細

①ツアー概要

＜タイトル＞

「スタ☆ふく水産漁業ツアー2016　来て見て体験 いわきで味わう 海の幸 人の幸」

＜実施日＞

2016 年 8 月 27 日（土）～8 月 28 日（日）（1 泊 2 日）

＜実施場所＞

福島県いわき市

＜参加者動員数＞

計 29 名

＜参加スタッフ＞

牧内美樹／遠藤圭一郎／伊藤如晏

黒澤和也／菊地実咲／戸田龍佑／安齋瑞希／長沢　梓

＜参加料金＞

一般料金：17,200 円

学生料金：13,200 円（先着 15 名）

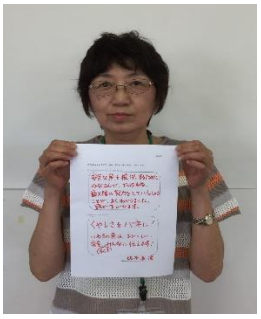
②ツアー行程

○1 日目:8 月 27 日(土)

時間	行程	行程中の様子
9:10	郡山駅集合・出発	今回初めての郡山駅集合を導入。約三分の二の参加者が郡山駅での集合となった。
10:30	いわき駅集合・出発	
11:00～11:50	基調講演	福島県水産試験場の根本様より、福島県およびいわきの漁業の現状やあゆみ、放射性物質の基礎知識などについてご講演いただいた。 講演後には参加者の方から質問する姿も多数みられた。
12:05～12:50	昼食	いわき・ら・ら・ミュウ「やまろく」にて昼食
13:00～14:00	放射性物質検査体制見学	福島県の取り組みである、放射性物質の検査体制およびその検査が行われている施設内の見学を行った。

14:40～19:00	漁師プログラム	乗船体験やロープワーク、ホッキの殻むき体験、海鮮 BBQ などを通し、地元漁師とツアー参加者との交流の場となった。
19:30	宿泊先到着・懇親会	懇親会では 1 日目の振り返りやそれぞれの日常についてなど、参加者の方同士での交流をし、仲を深めている様子だった。

○2 日目:8 月 28 日(日)

時間	行程	行程中の様子
9:00	宿泊先出発	
9:30～10:20	大川魚店による 講演・店内見学および購入	バス内にて大川魚店の取り組みなどについて社長の大川勝正様にご講演いただいた。また、その後自由に店内を見て回り、各々購入をしていたいだいた。
10:30～12:40	ニイダヤ水産による 講演、干物加工体験および昼食	お店の取り組みやこだわりなどについて賀澤信社長にご講演戴いた後、実際にいわき市の魚であるメヒカリの加工体験を行ったり、またお店の商品も昼食としていただいたりした。
13:15～15:45	振り返りまとめのワークショップ	1 泊 2 日のツアーを振り返り、地域の方に対するメッセージを書いていただいた。 
15:55～16:30	お土産購入	いわき ら・ら・ミュウにて、参加者各々お土産購入をした。
17:00	いわき駅解散	

③アンケート結果

○ツアー満足度全体平均

3.60/4.0 ポイント

	悪	～	～	良		
	1	2	3	4	計（人）	平均
① ツアー全体	0	0	7	22	29	3.76
② 料金	0	2	10	17	29	3.52
③ タイムスケジュール	0	1	13	15	29	3.48
④ お食事	0	1	10	18	29	3.59
⑤ 宿泊先	0	3	10	16	29	3.45
⑥ スタッフ対応	0	0	8	21	29	3.72
⑦ コンテンツ	0	0	9	20	29	3.69
全体						3.60

○ツアー参加者状況

●参加人数…29 人

●学生:社会人:未記入＝6:22:1

●福島県内出身:福島県外出身:未記入＝8:18:3

●男:女＝20:9

●参加者年代

10 代…4 人

20 代…6 人

30 代…3 人

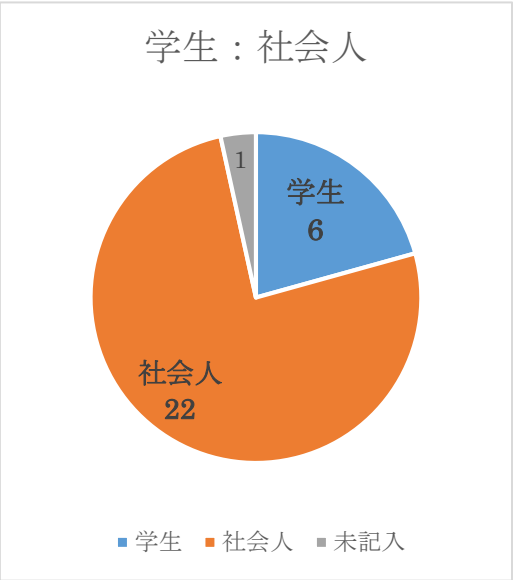
40 代…4 人

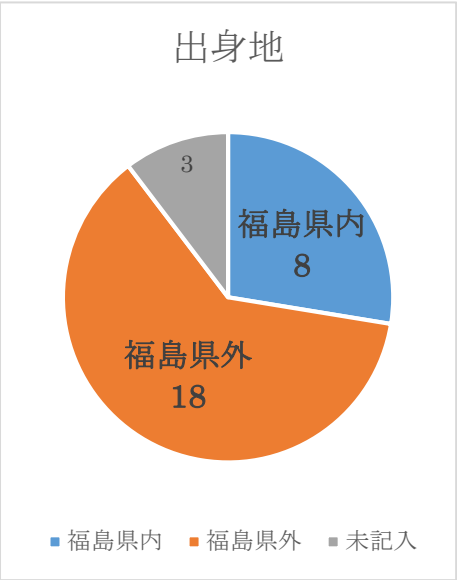
50 代…5 人

60 代…3 人

70 代…3 人

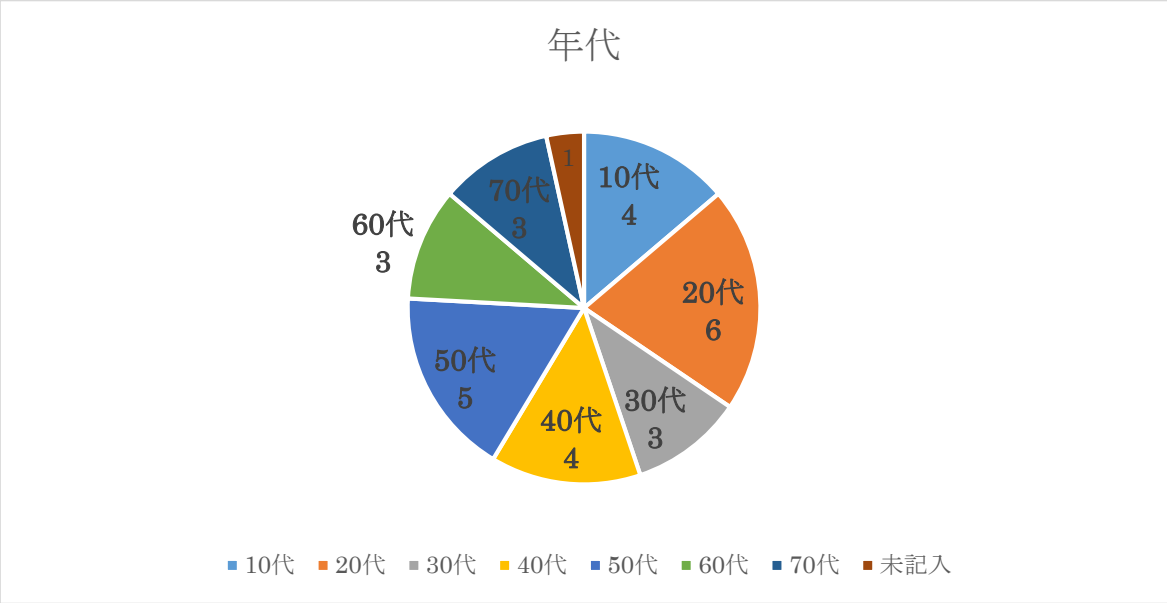
未記入…1 人





社会人と学生の比率は、社会人の方が多いようでした。

福島県外出身の方にも多く参加していただいています。



参加者の年代の偏りはあまり見られず、幅広い年齢層の方に参加していただいています。

④参加者の声（一部抜粋）

・見学先の皆さんが自分たちの職業に誇りを持ち、しっかり検査した高品質の商品を提供しようとしているのを知り、それだけに風評被害が消え切らない現状を見て、まだやるべきことは多いのだと感じた。これからも何らかの形でいわきに関わって行きたいと感じた。（10 代男性）

・楽しいことも沢山あり、様々な方とお話して学ぶこともできました。辛い状況の中にいる漁師さん達をスタふくの応援が支えていることがすごいなと思いました。1 つ年上でも同じ大学生の活動を見て勉強になりました。いつか交流できたらうれしいです。（10 代女性）

・事前の情報だけでは理解できない魅力を体験できた。今後も企画の継続をよろしくお願いします。（20 代男性）

離れていてもできること、小さくても続ける意味を考えさせられました。他人事で終わらせてはいけない、常にジブンゴトとして考えてみることして考えてみること。震災直後に何もできなかった分、中長期的に忘れず、末永く風化させないためにできることを続けます。（40 代男性）

・こうしたツアーの重要性を今回自分が学んだことからも痛感しました。できればもっと拡散して県外からも多くの人に来てもらえるといいですね!（60 代女性）

・とってもよい企画でした。最年長でしたが若い方々と行動できたことに感謝いたします。（70 代女性）

⑤企画担当者の声

私は福島県出身ではありますが、スタふくに入りいわきツアーを企画するまではいわきについて、とりわけ漁業については何一つ知りませんでした。いわきツアーの企画のメンバーに入ろうと思ったのは、なじみのないいわきという地域について興味があったからです。最初はそんな単純な動機で企画に加わりましたが、ネットでいわきについての情報を集めるだけでなく、下見（地域リサーチ）のためにいわきに足を運び、現地の人とお会いして話しを聞くことで何を思って今を過ごしているのかを知りました。

地域リサーチを通じて知った想いというのは、漁師さんや加工・販売の方、その他水産業に関係のある職業に従事している方、それぞれ違いはありますが、その中に共通しているのはいわきについて憶測ではなく真実を見て欲しいということです。例えば、漁師さんであれば5年前のまま、つまり漁に出られていないということではなく、試験操業という本操業より小規模な漁には出て、魚介類を獲っていること、加工・販売の方であれば漁師さんが獲ってきたものがきちんと検査され、安全基準をクリアしたものを買って商品を作りお店に置いていることなどニュースでは放送されているかもしれないが関心がないと見逃してしまうことがあります。このような声を聞いているうちに自分としても何かできないかと考えながら、この企画を進めていました。ツアーのプログラムの中でそういった話を聞き出しつつ、参加者に楽しんでもらえるようにするのは大変で実際反省点も多かったと思いますがそれでも手応えを感じました。

今回、このツアーを企画して、参加者が学びを得ていただきたいと思っていましたが、参加者の学びに対する姿勢が逆に自分にとって勉強する良い機会になりました。参加者の方々は現地の人の話を聞いて自分の立場から何ができるか、いわきには何が必要なのか、など考えて、話していただけました。自分も今回を機にいわきの漁業についてもっとニュースや新聞などを見るようにはなりましたが、それだけではいわきのためにはならないと思っています。具体的に何をすれば良いかは未だ考え中ではありますが、一つ自分にできるアクションとして現地に行き、そこで知ったことを広めていくということができます。小さいことではありますがそれがもっと多くの人が行うことで大きなことになると考えます。

最後にはなりますが企画を進めるにあったて、今回のツアーに協力していただいたいわきの方々、ならびに集客にご協力していただいた方々、ツアーに参加していただいた方々がいてこそ今回のツアーを催行することができました。この場をかりて御礼を申し上げます。

いわき水産漁業ツアー2016 担当　2 年

遠藤圭一郎

私にとって「いわき水産漁業ツアー」は昨年に続き 2 度目の企画でした。昨年度は学生や県外から参加してくださった方が多く、「水揚げされた魚介類がこのように検査されているとは知らなかった」「いわきの魚が美味しい」などとの声が聞かれ、いわきの漁業の現状がまだ知られていない現状を感じたとともに、実際に現地に来ることでもたらせた変化もあったのではないかなと、時間をかけて企画してきたツアーを無事開催することができたことに喜びを感じたことを覚えています。今年もより多くの人にいわきの漁業の現状や魚介類の美味しさを知ってもらいたい、地域の方々との交流なども通していわきに想いを馳せる人を増やしたい、そう思い企画に携わりました。

約 4 か月間かけて行う企画の中では、地域に何度も足を運び現地の方と打ち合わせをします。昨年度もお世話になった方々にお話を伺いに行くと、この 1 年での変化も幾つかありました。その中でも一番印象に残っているのは、ニイダヤ水産の賀澤社長から聞かれた「昨年度ツアーに参加してくださった方がこの前も買いに来てくれたよ」という声です。ツアーを機に地域に足を運んでくださる方が増えたことを知り、今年のツアーでもこのような方を 1 人でも増やしたいと強く思いながら企画を進めて行きました。

迎えたツアー当日。昨年にも増して学ぼうという意識の強い参加者の方々にお集まりいただきました。「検査されて安全なものしか出回っていないなら、福島県産が一番安全と言えるのでは」という声、「地元（県外）にいるといわきの漁業についてのニュースなんて見ないし、来てよかった」との声などが聞かれました。地域の方からも「遠方からわざわざ来てくれてるんだね、ありがとう」などという声もかけていただいていたようで、微力ながらも今年も地域の方と参加者の方の架け橋となれたことは私にとって大きな喜びでした。

ツアーが終了し、この取り組みを継続していきたいという思いと共に、もっと違う形でも地域の方と関わる他の方法もあるのではないかと思うようになりました。今回のツアーの反省点も活かしながら、今後の地域との最善の関わり方も模索しつつ、考えて行きたいと思います。私自身としては、微力ながらも自身の知り得た情報を発信したり、他の地域の水産漁業について学んだりして、いわきに関わるだけでなく水産漁業についての知識を深めていきたいと思います。

最後になりますが、ツアーにご尽力いただきました地域の方々、本ツアーに参加してくださった皆様、ならびに本ツアーにご支援いただいた皆様に心から御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

いわき水産漁業ツアー2016 担当　2 年
牧内美樹

6. 広報・メディア掲載について

【宣伝方法・経緯】

募集開始　7 月 5 日
募集締め切り 8 月 9 日
ツアー催行決定　8 月8日

・スタ☆ふく HP　(http://sutahuku.jimdo.com/)
・Facebook ページ
…イベントページ作成、リレー投稿、参加希望者へのコンタクト
・Twitter アカウント(＠Study_Fukushima)
　　…準備の進捗状況やツアー告知などをこまめに配信

テレビ局、ラジオ局、新聞社への取材依頼
プレスリリース(メール送信、ビラ配布)
－福島大学教授、ゼミ
－各大学のボランティアサークル、学生団体、
－ボランティア、観光、水産漁業に関連する団体

ビラ配り(大学前)
スタッフの知人を通した告知

【メディア掲載履歴】
▽テレビ
・NHK「放射能汚染からの漁業の再生~福島・浜通り Part3~」
　9 月 18 日(日)午前 10 時 05 分～10 時 53 分
　再放送 9 月 23 日(金)午後 2 時 05 分から 2 時 53 分

・福島中央テレビ 「海と日本プロジェクト」
　9 月 8 日　午前 11 時 51 分～11 時 55 分

▽新聞

8 月 1 日　しんぶん赤旗

福島学生企画 いわき感じるツアー

福島大学の学生グループが、いわきの水産漁業を体験する1泊2日の「感じて考えるツアー」を企画し、県内外に参加を募っています。

ツアーは、魚市場で放射線検査を見学、水産会社で干物加工を体験、漁船に乗って漁をし、シラスやホッキ貝を食べ、海鮮バーベキューで漁師と交流します。講演もあります。

学生グループ「スタ☆ふく」は、東日本大震災後の2012年に発足。風評被害を払拭（ふっしょく）し、地域を活性化させたいと、地域住民との交流を特徴とするスタディーツアーをよびかけてきました。7地域15回360人参加の企画を実施しました。

今回は8月27日（土）午前9時郡山駅集合、28日（日）いわき駅午後5時解散のバスツアー。参加費は一般1万7200円、学生1万3200円。申し込みは福島交通観光024（531）8950。締め切り8月5日。

2016年8月1日（月曜日）

・8 月 2 日　毎日新聞

農・漁業の体験を

福島大生企画 ツアー参加者募集

福島大の学生でつくる「スタ☆ふくプロジェクト」は、県内外の社会人や学生を対象とした体験ツアーを8、9月に企画し、参加者を募っている。東京電力福島第1原発事故による風評被害の払拭や地域活性化が目的。

いわき市で8月に実施する「水産漁業ツアー」と、二本松市東和地区で9月に行う「東和田舎暮らしツアー」の2種類。いずれも1泊2日。

「水産」は8月27、28日。郡山駅集合で、いわき駅解散。放射性物質の検査の様子を見たり、漁船の乗船やバーベキューを通して漁師と交流したりする。料金は税込みで一般1万7200円、学生1万3200円（学生料金での申し込みは先着15人まで）。

「田舎」は9月10、11日。郡山駅で集合・解散。農業を中心に先進的な地域づくりが進む東和地区で、収穫体験や農家の民泊などを楽しむ。料金は税込みで1万5600円、女性は1万2600円（女性料金での申し込みは先着10人まで）。

申し込み、問い合わせは福島交通観光（☎024・531・8950）。【坂巻士朗】

水郡線テーマの絵画作品を募集

小学生対象

JR水郡線の沿線市町村でつくる水郡線活性化対策協議会は9月2日まで小学生を対象に「奥久慈清流ライン乗ってみよう水郡線」児童絵画展の作品を募集している。

JR東日本水戸支社の共催で、今年で6回目。題材は、水郡線の車両か、駅舎を取り上げていれば自由。小学校の低・中・高学年の3部門で募っている。応募は1人1点。入賞作品は、車両内に展示する。問い合わせは、同協議会事務局の石川町地域づくり推進課（☎0247・26・9

8 月 4 日　朝日新聞

福島のいま学ぶ

漁業・農業…対話ツアー好評

福大生企画

先入観で福島を見ず、地域の人と対話をして生の姿を感じてほしい――。そんな思いで福島大の学生たちが企画するスタディーツアーが好評だ。参加者は4年間で約360人。この夏と秋もツアーを予定している。

福島大の学生有志が2012年4月につくった「スタ☆ふくプロジェクト」。福島の再興につなげたいとツアーを企画してきた。

漁師を訪ね、酒造りの現場を歩き、観光の復活に奔走する人の話を聞く。そういったツアーをこれまでに計7カ所で15回開いてきた。参加者は県内外の中学生から70代までさまざま。「福島のイメージが変わった」「風評被害払拭に何ができるか考えるきっかけになった」などの声が寄せられている。

今年は8月27、28日にいわき市で「水産漁業ツアー」を、9月10、11日に二本松市東和地区で「田舎暮らしツアー」を予定する。

いわき市では、放射性物質の検査体制や漁船での漁の見学、水産会社での干物づくりなどを体験。漁師と交流する場もあり、2年生の牧内美穂さん（19）は「楽しみながら学び、ツアー後も関わるきっかけにして頂ければ」と語る。

二本松市では農家民宿に泊まり、農作業体験やワイナリー見学などを予定。2年生の實野ゆうさん（19）は「新規就農者も多く、民宿や有機農業など活発に取り組む人がたくさんいる」と地域の魅力を語る。

「水産漁業ツアー」は一般1万7200円で申し込みは8月5日まで。「田舎暮らしツアー」は一般1万5600円で申し込みは同19日まで。学生や女性向けの割引がある。連絡先は福島交通観光（024・531・8950）。【杉村利将】

昨夏のいわき市での水産漁業ツアーの様子＝スタ☆ふくプロジェクト提供

おくやみ

（故人の氏名、死亡日、年齢、式の日時、場所、喪主、自宅の順）

【福島市】斎藤健治さん　2　74歳　5日午後2時　五月町1の19　たまのやこうえん斎苑さつき　長男雅さん　源利剛ノ食12の2▼小関清さん　2日　58歳　6日午後1時　郡山南水戸1の1　郡祭郡山ホール　長男翼さん▼宮代一郎さん　2日　78歳　7日午　原町区橋本町3の26の2　雪月花はるまち斎苑ホール　長男明久さん▼原町区上太田の11　【伊達市】菊田和二朝さん　2　90歳　6日午後1時　福島市鎌田字西の1　たまのやこうえん斎苑福島　長男真司さん▼本町5の2　【桑折町】青野フミ子さん　2　74歳　5日午前9時半　会津若松市相生町1の7の11　たちばな会館　夫昌夫さん▼野沢大田西4の2　【会津美里町】関松弘さん　3　81歳　5日午後0時半　南島3の67　みどり大沼斎苑　長男武さん▼穂積勝ノ内甲374

7. ご協力いただいたみなさま

＜企画＞

福島県水産試験場　根本芳春様/いわき・ら・ら・ミュウ　やまろく/小名浜魚市場/
いわき地区船曳網漁業連絡協議会のみなさま/いわき湯本温泉古滝屋　里見喜生様/
大川魚店　大川勝正様/ニイダヤ水産　賀澤信様

＜企画実施＞

福島交通観光株式会社

2013 年 6 月には、福島県復興のために地元若者が県内外の多くの若者を巻き込んでツアーを実施している点が評価され、「第 1 回若者旅行を応援する観光庁官賞・東北ブロック賞」を受賞しました。

8. 総括

2012 年度夏に始まった「水産漁業」がテーマのいわきツアーは今年で 5 回目の開催となりました。これも、ツアーを企画するにあたってご協力していただいた地域の方々、スタ☆ふくを応援してくださっている皆様のおかげです。この場を借りて御礼申し上げます。

今回のツアーは、以前から聞かれていた「ツアーはもうやらなくてもいいのではないか」という声をより深く受け止めて企画を進めることとなりました。地域リサーチに行った際、魚を加工販売している方から「この前、前回のツアーの参加者が店に来たよ」という言葉がありました。また、今回のツアーの参加者から「あの漁師さん、この前テレビに出ていましたね」と教えていただきました。このことから前回までのいわきツアーで地域の方と参加者との顔の見えるつながりを創出できていたことを実感することができました。しかし、今回のツアーを企画・実施するにあたってご協力いただいた地域の方には「ツアーはもうやらなくてもいいのではないか」とおっしゃる方もいらっしゃいました。このようにツアーに協力する意味がないと思っていらっしゃる方には、ツアーに参加してくださる方に「本来の漁師の姿を見てほしい」「いわきの海を知ってほしい」という思いを持っている方がいます。これが達成できたかどうかは、参加者の声を直接届けるのが良い手段です。しかし、そういう想いを持っている方に参加者の声を届けるには、ツアーの中の限られた時間の中で参加者とお話ししていただくしかありません。それが難しいため、参加者の声を届けようとツアー2 日目の振り返りの時間ででた参加者の声や感想を地域の方へ届けるようにしていました。それでも思うように伝わっていなかったため、ツアーの成果を感じることができず、ツアーはもうやらなくてもいいのではないかという意見になったのだと思います。これではツアーを実施した成果が薄れてしまいます。参加者が何かを得るだけのツアーではなく、地域の方にも得るものを提供するのが「スタ☆ふく」です。企画の中身はもちろん、地域の方へのフィードバックの方法についても改善していきます。地域の方には参加者に「ツアーを経て、もう一度いわきに来てほしい」と思っている方もいます。ツアー2 日目の振り返りでは参加者からいただいた声の中に「また来ます」とあり、その点では再びいわきに来る意欲を創出することができました。地域の方の要望の全てをかなえることは難しいですが、できる限り地域の方の想いを拾った企画が出来るよう努めていきます。

ツアー2 日目、ツアーの振り返りを行った際、参加者から「いまだに試験操業を行っているとは知りませんでした」という声をいただいた半面、「想像していたよりいわきが元気でした」といった声もいただきました。参加者各々が事実を目の前にして感じることは様々ですが、想像や思い込みでいわきや福島を見るのではなく、実際にいわきを訪れ、知り、感じたことを大切にしてほしいと思います。実際に福島に何度も来ることは難しいという方も、来た経験があるのとないのでは大きな差があります。また、地域の状況はすぐに変化します。報道などで伝わる情報が少ないからこそ、福島に来ないとわからないことがたくさんあります。そのようなことを福島県外、また福島県内に住む他の地域の方へ伝えるのが「スタ☆ふく」の役目です。一番に地域に寄り添い、地域を学び、福島の内と外をつなぐ架け橋となれるよう、これからも地域に根付いた活動を展開していきます。最後になりましたが、今回の企画に携わってくださった多くの方々に改めて御礼申し上げます。これからも福

島の今を多くの方々に伝えるべく、より福島に密着した活動を展開していきます。今後とも応援していただけたら幸いです。

代表　菊地実咲

9. お問い合わせ先

スタ☆ふくプロジェクト

代表：菊地実咲

住所:福島県福島市金谷川1
福島大学学生課　スタ☆ふくプロジェクト宛

Mail:suta.fuku@gmail.com

HP:　http://sutahuku.jimdo.com/

編集
牧内美樹　伊藤如晏　遠藤圭一郎
長沢梓　戸田龍佑　安齋瑞希　菊地実咲